

新生

ムスリム新聞

西暦2022年 4月20日

ヒジュラ暦1443年 ラマダーン月

353号

アッサラームアライクム

ムスリム新聞読者のみなさん

ラマダーンおめでとうございます！アッラーに祝福されたラマダーン月を、みなさんいかがお過ごしでしょうか。もえさかる火獄の扉が閉じられ、空気もすこし涼しくなりました。悪魔が鎖でつながれて善行がしやすいこの時に、どうぞ新聞を広げてください。

目次

●クルアーン解説 第39章 [集団] 71-72節 (26)	・・・ 2-4 頁
●シャマーイル 第25回 オンライン講座のお知らせ	・・・ 5-10 頁
●東南アジアのシャーフイー派第55回 シャーフイー派に対する批判と対立⑤	・・・ 11-12 頁
●カリフ国家の諸制度 統治と行政 (6) 第一章 カリフ	・・・ 13-15 頁
●イスラーム学習 3 10. 預言者ムハンマド (サッラッラーフアライヒワサッラム) その1	・・・ 16-17 頁
●おすすめ読み物	・・・ 18 頁
●お手紙	・・・ 19 頁

クルアーン解説

第39章 [集団] 71—72節 (26)

アーリファ松山

クルアーンの部分は、『日垂対訳クルアーン』（作品社）を参照しています。

★ジャラーライン（『ジャラーラインのクルアーン注釈（Tafsīr al-Jalālain）』ジャラール・アッ＝ディーン・アル＝マッハリー（ヒジュラ暦864年没）とジャラール・アッ＝ディーン・アッ＝スユーティー（ヒジュラ暦911年没）著）（参照：『タフスィール・アル＝ジャラーライン』第3巻、中田香織（ハビーバ）訳中田考（ハサン）監訳、日本サウディアラビア協会、2006年。）

『ジャラーライン』はクルアーンの読誦法としてワルシュ&ナーフィウを採用しています。

★イブン・カスィール（『イブン・カスィールのクルアーン注釈（Tafsīr Ibn Kathīr）』イブン・カスィール（ヒジュラ暦774年没）著）

★クシャイリー（『精妙なる示唆（Latā'if al-'ishārāt）』クシャイリー（ヒジュラ暦465年没）著）

※文中のひらがなの「かれ」はすべて「アッラー」を指します。

慈悲あまねき慈悲深きアッラーの御名において

そして信仰を拒んだ者たちは集団で火獄に追い立てられ、やがて、そこに至ると、その諸々の門は開かれた。そして、その門番たちが彼らに言った。「おまえたちの主の諸々の徴をおまえたちに読み聞かせ、おまえたちのこの日の会見を警告する使徒たちがおまえたちの中からおまえたちの許に来なかったのか」。彼らは言った。「いや、確かに」。だが、懲罰の御言葉は不信仰者たちの上に実現した。（39:71）

「そこに永遠に留まるものとして火獄の諸々の門に入れ」と言われる。そして高慢な者の住まいのなんと悪いものよ。（39:72）

そして信仰を拒んだ者たちは集団で火獄に追い立てられ、やがて、そこに至ると、その諸々の門は開かれた。そして、その門番たちが彼らに言った。「おまえたちの主の諸々の徴をおまえたちに読み聞かせ、おまえたちのこの日の会見を警告する使徒たちがおまえたちの中からおまえたちの許に来なかったのか」。彼らは言った。「いや、確かに」。だが、懲罰の御言葉は不信仰者たちの上に実現した。（39:71）

★ジャラーライン

『集団で』それぞればらばらの一つ一つの集まりで。

『追い立てられ』乱暴に。

『その諸々の門は開られた』『idhā（～すると）』の帰結節。

『主の諸々の徴』クルアーンなど。

『懲罰の御言葉』つまり、かれの御言葉（誉れ高き威厳ある御方かな）『必ずやわれらは火獄を幽精（ジン）と人間をひとまためで満たすであらう』（第12章 [フード] 119節、第32章 [跪拝] 13節）です。

★イブン・カスィール

アッラー（至高なる御方かな）は、どのように不信仰者たちが獄火に追い立てられるのか、彼らの諸々の不幸について教えてくださいました。

同様に、かれ（誉れ高き威厳ある御方かな）は、『その日、彼らは火獄の火の中に追い立てて押し込まれる』（第52章 [山] 13節）と仰せになりました。

つまり、「彼らは無理やりそこに連れて行かれる」、ということです。彼らは喉が渴いているにもかかわらず、そのようなことになります。

同様に、かれ（威厳あり至高なる御方かな）が『われらが、畏れ身を守る者たちを慈悲あまねき御方の許に使節団として集める日。（19：85）そして罪人たちを火獄に、渴きに水場を求める畜群のように追いやる。（19：86）』（第19章〔マルヤム〕86、87節）と仰せになりました。

彼らは、その状況において、聾で啞で盲であり、己の顔で歩く者もいます。

『そしてわれらは復活の日、彼らを彼らの顔の上で、盲で聾で啞の状態に追い集める。彼らの住まいは火獄で、消える度、われらは烈火を彼らに増し加える。』（第17章〔夜行〕97節）

かれ（称賛されし至高なる御方かな）の御言葉『やがて、そこに至ると、その諸々の門は開かれた』つまり、そこへ彼らが到着するやいなや、彼らに懲罰を早急に与えるために、すばやくその諸々の門が開かれます。

それから、性格が乱暴で、力の強いアル＝ザバーニヤという名の天使の一人であるその門の番人が、叱責と非難の意味をこめて、『使徒たちがおまえたちの中からおまえたちの許に来なかったのか』と尋ねます。

『おまえたちの中から』とは、つまり、「おまえたちがコミュニケーションを取れ学ぶことのできるような、おまえたちの種族のうちから」ということです。

『おまえたちの主の諸々の徴をおまえたちに読み聞かせ』つまり、「彼（使徒）がおまえたちに呼びかけ知らせたものの正しさ（を証明するため）の諸々の論拠と証拠をおまえたちに、提示し」ということです。

『おまえたちのこの日の会見を警告する』つまり、「この日の不幸についておまえたちに警告する」、ということです。

それで、不信仰者たちは、彼らに、『いや、確かに』と答えます。つまり、「彼らは確かにわれらのもとにやって来て警告をし、われらに仇となるような諸々の論拠と証拠を提示した」ということです。

『だが、懲罰の御言葉は不信仰者たちの上に実現した』つまり、「だが、真実から迷誤へとそれたわれらにふさわしい、われらがすでに持っていた不運のために、われらは彼らを嘘つき呼ばわりし背いた」。

また、かれ（誉れ高き威厳ある御方かな）の御言葉が次の一節で、彼らについて教え給うた通りです。『そこに一団が投げ込まれる度、その門番たちが彼らに尋ねた。「おまえたちには、警告者が来なかったのか」。（67：8）彼らは言った。『いや、その通り。確かにわれらには警告者が来たが、われらは嘘と否定し、そして言った。「アッラーはなにも垂示し給わなかった。おまえたちは大きな迷誤のうちにあるにほかならない。」』（67：9）また彼らは言った。「もしわれらが聞き、悟っていたならば、烈火の輩の中にはいなかったものを」。（67：10）（第67章〔王権〕8-10節）つまり、彼らは、自分自身を非難し、自分自身に対し後悔しました。

『そうして彼らは己の罪を認めた。それゆえ、烈火の輩は遠ざけられよ』（第67章〔王権〕11節）つまり、「彼らは遠くにやられ、絶望せよ」。

★クシャイリー

不信仰者たちは、乱暴に獄火に追い立てられ、信仰者は、優しく樂園に連れて行かれます。（訳者注：ここで訳されている「追い立て」も「連れて行かれ」もアラビア語で、同じ語「yuṣāqūn」が使われています。語根は「س-وق」です。）つまり、「سوق」は二種類の意味を含んでいます。ですが、一方の「سوق」ともう一方の「سوق」は、なんと意味が違う事でしょうか。

不信仰者たちがやって来ると、彼らに対して、獄火の門番は、叱責し非難します。そこには、称賛も賛辞も、応接も歓待もなく、ただ、恥辱と不名誉など、ありとあらゆる種類の懲罰があるばかりです。

「そこに永遠に留まるものとして火獄の諸々の門に入れ」と言われる。そして高慢な者の住まいのなんと悪いものよ。（39：72）

★ジャラーライン

『永遠に留まるものとして』永遠に留まることを定められたものとして。

『住まい』避難所。

『高慢な者の住まい』火獄。

★イブン・カスィール

かれ（称賛され至高なる御方かな）は、そこにおいて、『「そこに永遠に留まるものとして火獄の諸々の門に入れ」と言われる』と仰せになりました。つまり、彼らを見て彼らの状態を知っている者は、彼らが懲罰に相応しい者であると、彼らに仇となるように証言せずにはいられません。それゆえに、この言葉は、個別の話者に繋がるものではありません。むしろ、その言葉は、彼らを通曉し給う御方の正義の裁定をもとに彼らが今あるところに相応しい者であると、その場が彼らへの証言者であることを示すために、発せられました。

それゆえに、かれ（威厳あり至高なる御方かな）は、『「そこに永遠に留まるものとして火獄の諸々の門に入れ」と言われる』と仰せになりました。『永遠に留まるものとして』つまり、「そこに留まるものとして。おまえたちはそこから出ることもなく、そこから消え去ることもない」。

『そして高慢な者の住まいのなんと悪いものよ』つまり、「現世におけるおまえたちの驕りと、真実の追従へのおまえたちの拒絶ゆえに、おまえたちの帰る処のなんと悪いものよ、休む処のなんと悪いものよ。そして、かれは、おまえたちを、おまえたちがいるところに連れて行き給う。その状況のなんと悪く、その結末のなんと悪いことよ。』。

⑥⑥見てみようアラビア語

第39章71節

وَلَاكِنْ حَقَّتْ كَلِمَةُ الْعَذَابِ عَلَى الْكَافِرِينَ

だが、懲罰の御言葉は不信仰者たちの上に実現した。

عَلَى الْكَافِرِينَ	كَلِمَةُ الْعَذَابِ	حَقَّتْ	وَلَاكِنْ
(名詞)	(名詞)	(動詞)	(接続詞)
不信仰者	懲罰の言葉が	実現した	しかし

シャマーイル

～預言者ムハンマド様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の美德～ 第 25 回

アリー・ジェフリー先生「シャマーイル」の講義より

アーミナ編著

聖クルアーン 日垂対訳注解：<https://bit.ly/3dDxZt8>

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

◆預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の美德 ～預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を見本として模倣すること

「愛する」という言葉は、日本語では異性に対しての愛情に使われることが多いですが、「預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛」というのは、アッラーへの愛と同様、異性に対するものとはまったく別の種類のものです。イスラームでは、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情というのは、教師に対する思慕の念や、両親に対する親愛の情を超える深い愛情で、決して異性に対する愛情ではありません。それを間違えてしまうと、私には夫がいて、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）には奥様がいらっしゃるのに、どうやって愛するのだろうか？？？ということになってしまうので、日本では「愛」という言葉に注意が必要です。こういった誤解が生まれるほど、「愛」という言葉が、異性間の間だけに使われることが多い状態があります。アラビア語で「愛」というとき、それは、先生と生徒の間の信頼関係にも使われ、動物への愛、思想への傾倒に対して、など様々なものに対して使われる「フubb」「マハッバ」というアラビア語になりますが、日本語には一言でそれにふさわしい単語がないため、「愛」と訳すと異性への愛と誤解を生むことがあります。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情には、敬愛と親愛、思慕と憧れ、心酔と心服、信頼と信用など様々な愛情が含まれています。

◆預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を見本として模倣すること

預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の美しいご人徳や行動を真似することで、天国に入ることが簡単になるように、アッラーは私たちに預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を遣わしてくださいました。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣する時に、一番重要で、一番最初にすべき模倣は、それを何のためにするか、という預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のニーヤ（意思）を心の中で真似することです。

預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の美しい人徳や行動はすべて「アッラーのお喜びを求める」というニーヤ（意思）から湧き出ていました。私たちはまず、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣する際に、「アッラーのお喜びを求めて」真似をする、という決意をしましょう。

アッラーのことを本当に愛する人は、アッラーが一番愛した預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣することに懸命になります。その人の中では、自分をほめる人も自分を非難し中傷する人も同じです。彼はその人たちのために行動するわけではないので、人のほめ言葉や非難の言葉に、何も影響されません。アッラ

ーゆえに、アッラーへの愛によって湧き出る預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情ゆえに模倣します。このニーヤ（意思）によって、ある特別な成果が得られます。それは、沿うニーヤ（意思）する人が、妬み、自己満足、偽善、見せかけなどの心の病に影響されることがない、という点です。アッラーと預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を愛する人の心は、そうした病を焼き尽くしてしまいます。彼らはアッラーと預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）がそれらの病をお嫌いになることを知りながら、それを心に持つことや、行動に表わすことができなくなるからです。

預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を誠実に愛する多くのサハーバ（アッラーのご満悦あれ）やタービーンやイスラーム学者達が、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の美しい人徳を身に着け、その高貴な美德による行動を、「アッラーのご満足を求めて」実行していました。彼らは、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への思慕により、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の心の状態を模倣することを通して、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の表面的な行動を模倣することへと移って行きました。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の寛大さ、寛容さ、ご慈悲の深さ、謙虚さ、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）が身に着けていらっしゃった人徳、これらの人徳を模倣したいという気持ちは、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への思慕によって、心の底から湧き上がり、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のなさっていた行為へとその人を駆り立てます。

預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）は、どんなに失礼な言葉や怒りを覚えるような罵倒をされても、大変寛容だったことを知っている人は、自分に対する罵倒を聞いた時、どうやって相手に怒ることができるでしょうか。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のお孫さんにあたる、ハサン・ブヌ・アリー様（預言者様（アッラーのご満悦あれ）が座っていると、ある男がやって来て、ハサン様（アッラーのご満悦あれ）を罵倒し始めました。山が崩れ落ちるほどの汚い言葉を沢山浴びせかけても、ハサン様（アッラーのご満悦あれ）が彼に何も言わないのを見て、男はますます声を荒げ、ハサン様（アッラーのご満悦あれ）に向かって大声で、「オイ、お前！！お前のことを、言ってるんだ！！」と叫びました。すると、ハサン様（アッラーのご満悦あれ）は男に対し微笑んで、ご覧になると、「あなたのことを、見逃して（赦して）いるんです。」と答えました。これは、ハサン様（アッラーのご満悦あれ）の中にある、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の人徳とのつながりによって表れた行動です。

有名な話に、アリー・ブヌ・ルフサイン様（彼と彼の先祖にアッラーのご満足あれ）がマスジドから出てくると、男が彼の事を中傷する言葉を並べ罵倒しました。それを最後まで聞いていたアリー様（アッラーのご満足あれ）は、男が黙ると、「あなたが今おっしゃったことはすべて私の中にあります。そして、あなたが知らないもっとひどい欠点が私にはあります。あなたのこのご忠告のお礼に、何か差し上げられる必要な物はありますか？」と尋ねました。男は泣きながら「どうか赦して下さい。私はあなたが預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のご子孫だということを証言します。ある人たちが私の貧しさに付け込んで、あなたを怒らせることができたなら1000金貨与えると言ったのです。」と言うと、アリー様（アッラーのご満足あれ）は、「そう言うてくだされば、あんなことをしなくても差し上げたのに。」と1000金貨を彼に与えました。

この預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のご人徳への模倣を、私たちのウンマの中に探さなければなりません。ムスリムは一日5回の義務の礼拝をマスジドでして、夜の任意の礼拝もし、断食もし、目や耳や舌を悪いものから避けて守り、表面的に預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣しているにもかかわらず、ある時、一瞬のほんの些細なきっかけで、悪い性格による行いが露呈する、ということがあっては残

念です。人徳、というのは、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の模倣において「揺るぎない」ことです。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を真似することに、どんな時でも揺るがず、どんな人に対しても、どんなにひどい状況であっても、断固としてそれを行い続けることです。誠実に預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣した人は、肢体をひとつひとつ引きちぎられるようなひどい目に合っても、決して高貴な人徳から逸れることはありませんでした。なぜなら彼らは預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の模倣の光を身にまもっていたからです。

サハーバたち（アッラーのご満悦あれ）のおひとり、ハッバーブ・ブン・ル＝アラット様（アッラーのご満悦あれ）は、マッカでクライシュ族の女主人の奴隷だった時、イスラームに入信しました。彼（アッラーのご満悦あれ）がムハンマド様（アッラーの祝福と平安あれ）の教えへの信仰を表すと、女主人は彼を拷問し、イスラームを棄教させようとしてしました。ハッバーブ様（アッラーのご満悦あれ）は刀を作る職人でしたが、彼女は、刀を作るための鉄をすべて集めると火にかけ溶かし、ハッバーブ様（アッラーのご満悦あれ）の背中や体中に押し当て、ムハンマド様（アッラーの祝福と平安あれ）の教えを離れる、という一言だけを言わせようと拷問にかけました。来る日も来る日も燃え上がった鉄の炎が、次々とハッバーブ様（アッラーのご満悦あれ）の背中の皮膚で消されていきました。それでも彼（アッラーのご満悦あれ）は預言者ムハンマド様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の教えを離れるとは、ついに一言も口にしませんでした。これはハッバーブ様（アッラーのご満悦あれ）の心の中にある預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）との誠実なつながりによるものです。

サハーバたち（アッラーのご満悦あれ）の心の中には、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情がしっかりと根付いていました。そのため、崇拜行為や人徳の模倣だけでなく、欲や好きな物まで、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）に似ていきました。アナス様（アッラーのご満悦あれ）は、「アッラーの使徒さまが皿の中でかぼちゃを追うのを見るまでは、私はかぼちゃが好きではありませんでした。」とおっしゃいました。

かぼちゃを好きになることまで真似ることの意味は何でしょうか？かぼちゃを食べることがスナナであるわけではありません。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）はかぼちゃをお好きでしたが、それは礼拝や断食などの崇拜行為ではありません。ただの食べ物の嗜好の一種です。他の人が食べるのと同じように預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）がかぼちゃを召し上がられた、それだけのことです。アナス様（アッラーのご満悦あれ）は、崇拜行為として、かぼちゃを好きになられたわけではありません。ただ、心の奥深くに根づく預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情によって、かぼちゃがとりわけ美味しく感じる、ということが彼に起こったのです。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情が、それをおいしくしていたのです。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への誠実な愛情から、知らず知らずのうちに、自分の好みまで預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣するようになったのです。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）がかぼちゃをお好きなのを見た途端、かぼちゃへの愛情が、彼の心に下りてきたのです。預言者ムハンマド様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）が食べていたから強制的にそれを食べなければいけない、と自ら強いて無理やり食べていたわけではなく、彼（アッラーのご満悦あれ）の嗜好、食べ物の好みにおいても預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模倣することが、自分の欲による嗜好よりも好ましいものになっていたのです。

私たち人間は何かを真似するようにできています。産まれた時から母親や周りの大人を真似して言葉を話せるようになり、歩けるようになり、真似をして鉄棒やテニスをできるようになり、また大人になってからも、会社の仕事を先輩の真似をしてできるようになり、礼儀作法やマナーなども誰かを見て真似します。人は常に必ず誰

かの真似をするものなのです。自分で考えて行動しているように思っている、実はどこかで見た誰かの真似をして、マナーを身に付けたり、どこかで見たファッションを真似たりしています。その真似る対象が、私たちをお創りになられたアッラーが私たちに真似るようにと命じた預言者ムハンマド様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）でない時、私たちはアッラーに向かわず、どこに向かっているのでしょうか。その舵を、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）ではなく、ただ自分の欲望に任せた時、私たちは、真似すべきでないものや人を真似ているかもしれません。こう言うと、いや、私たちには自分の考えがあり、自由がある、イスラームに強制はない、自由に自分の好きなことをできるはずだ、と言う人がいるかもしれません。もちろん、そうです。しかし、例えば人に会ったら握手をする、異性でも同性でも同じように、、、また深々と90℃頭を下げてお辞儀をするのが礼儀正しい、、こういった動作は、自分一人で考えて生み出したわけではなく、結局、誰かを真似なければいけないものです。それが、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の真似ではない時、私たちはその真似によって、自分を天国から遠ざけてしまう行いをしているかもしれません。（家族ではない異性との握手やアッラーではなく人に対して90℃頭を下げるようなお辞儀はイスラームでは禁じられています）

例えば、右手にナイフ、左手にフォークを持つことをマナーと呼んだり、エチケットと呼んだり、何と呼ぼうと、それをすることを決めた誰かの真似であり、それに従うことで、私たちは、預言者ムハンマド様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のスナナである「右手で食べること」と逆のことをしています。

問題は、どちらの手で食べるか、や、フォークとナイフの問題ではありません。問題はもっと大きく、根深いのです。自分が、何を善いものとし、悪いものとするか、の人生における選択基準です。自分の人生の中で、何を善いものとし、何を悪いものと判断するか、という価値の基準の問題なのです。その基準をどこに置か、ということです。食べ方、飲み方、服の着方、例えば、ファッションや流行によって、スカートの丈が短くなったり長くなったり、それを追って真似をすること、流行が短いスカートだから自分も短くする、ひげが流行っているから髭を生やす、体にぴったりした服が流行っているからぴったりした服を着る、知らず知らずのうちに、何かに自分を支配されて、「流行」という自分の来世にとって何の益にもならないものを真似して追いかけているかもしれません。

アッラーは、私たちが真似をする対象を間違わないように、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）をお送りくださり、食べ方や眠り方、眠りからの起き方、etc.人生のすべてのことを模範とできるよう教えてくださいました。それはトイレの入り方や爪の切り方にまで至ります。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）を模範とすることで、まず最初に、私たちの現世の生活が善くなります。来世ではなく、私たちの目の前に見えている、この世での生活に影響が出てきます。

預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の食べ方は、私たち人間にとって、一番健康的な体に良い食べ方です。現代医学がそれを証明し始めています。断食の医学的な効用、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のハディースにあるように、胃の3分の1を食べ物に、3分の1を飲み物に、3分の1を空気に空けておくこと、すべて預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の時代には発見されていなかった医学的な効用があります。現代医学によって、預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の言葉が正しいことが証明されています。

しかし、私たちには、現代医学や科学の証明は必要ないはずで、人間を創ったアッラーが教えてくださっている食べ方なのですから、私たちの健康にそれが一番良いことは当然のことです。アッラーに従うようにとお命

じになられた預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）が、最も良い方法を教えてくださっているからです。それを医学が証明することが、私たちムスリムに必要でしょうか。医学が、「預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のやり方は、正しかった！」と証明することが！？「預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）の言っていたことは、正しかった」と！？預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）がおっしゃったことが正しいことは、証明されるずっと前からわかっていたことです。私たちの信仰は、そんな証明が必要なほど弱くなってしまったのでしょうか。ムスリムではない人たちが証明した現代医学の発見によって、私たちは自分の信仰を強くしてもらわなければいけないのでしょうか。預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情の欠如、つながりの弱さによって、そういうことが実際に現代のムスリム達に起こっています。

最後に、アッラーが私たちの心を預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）への愛情で満たしてくださるように、預言者ムハンマド様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）のなさっていたドウアーをしてみましよう。

اللَّهُمَّ إِنِّي أَسْأَلُكَ حُبَّكَ ، وَحُبَّ مَنْ أَحَبَّكَ ، وَحُبَّ عَمَلٍ يُقَرِّبُنِي
» إِلَى حُبِّكَ «

「アッラーよ、あなたへの愛を私にお恵みください。あなたを愛する人への愛をお恵みください。
私をあなたへの愛へと近づけてくれるものへの愛をお恵みください。」アッティルミズイー伝承

預言者様（彼の上にアッラーの祝福と平安あれ）はドウアーの中で、こうおっしゃっていました。

اللَّهُمَّ ارْزُقْنِي حُبَّكَ وَحُبَّ مَنْ يَنْفَعُنِي حُبُّهُ عِنْدَكَ ، اللَّهُمَّ مَا رَزَقْتَنِي مِمَّا أُحِبُّ
فَاجْعَلْهُ قُوَّةً لِي فِيمَا تُحِبُّ ، اللَّهُمَّ مَا زَوَيْتَ عَنِّي مِمَّا أُحِبُّ فَاجْعَلْهُ فَرَاغًا لِي فِيمَا تُحِبُّ

「アッラーよ、私にあなたへの愛をお恵みください。あなたの元で私に役立つものへの愛をお恵みください。
アッラーよ、あなたがお恵みくださった私が好きなものを、あなたがお好きなことにおける私の力としてください。
アッラーよ、私からお奪いになった私が好きなものを、あなたがお好きなことで埋める空白としてください。
」アッティルミズイー伝承



Islamic Study Onlie

「イスラーム勉強会」ムスリム女性限定

【一緒に学んでみませんか？】 会 費 : 無 料

LINE グループに登録されると、以下のプログラムを無料でご利用いただけます。

注：先生が女性のため、申し訳ありませんが登録は「ムスリマ（イスラーム教徒）女性限定」となります。

1. クルアーン読誦会

海外でクルアーンのタジュウィード（クルアーン読誦法）を習得しお免状を持っている専任の先生（日本人ムスリマ）から直接クルアーンの読み方の指導を受けられます。

アラビア文字が読めない方も、文字読みの練習から始められるので安心です。

2. イスラーム講義毎週提供

毎週数回行われる講義を生中継で受講できます。

現在配信中の講義は、「40 のハディース」「ムスリムの子ども教育」。

好きなものをご自由にご聴講ください。

3. 講義録音&レジュメアーカイブアクセス

講義の復習用、また様々な事情から、生中継の講義に参加できない方に向けたものです。すべての講義を何度でも閲覧可能です。講義のレジュメなどの配布資料もダウンロードできます。

ご登録は件名を「イスラーム勉強会参加希望」にて、

下記まで申し込みメールをお送りください：

welove.allah@hotmail.com

みなさまのご参加をお待ちしています

新兄弟姉妹サポートプロジェクト SKIP



東南アジアのシャーフィイー派 第 55回

—シャーフィイー派に対する批判と対立⑤—

アフマド塩崎悠輝

前回は、シャーフィイー派などの伝統的な法学派（「旧集団」）と、それ以外にも他の法学派などの説を参照しようという「新集団」の間でどういう意見の違いがあったのか、について書きました。意見の相違点といっても、死者の追悼のためにクルアーンを読んだりするタハリールを死後 7 日目に行うことの是非、といった程度で、実のところ、そんなに大きな違いがあったわけではありませんでした。せいぜい口頭や雑誌でとりあげられる論争で、人が死ぬような争いが起きたわけではありません。

同じ時代、20 世紀前半だと、もっと多くの新しい意見が現れて、深刻な対立が起きていました。たとえば、全ての宗教を否定する共産主義です。1920 年代から、東南アジア各地で共産党ができていき、特にインドネシア共産党は党员 300 万人を超える巨大な組織になっていきました。やがて、インドネシアでは 1965 年に共産党の非合法化と共に膨大な死者が出る争いが起きました。ナフダトゥル=ウラマーなども、共産党を弾圧する側で、その争いに加わりました。

20 世紀の初めになると、英国による植民地化を通して、マレーシアやシンガポール、それにミャンマーでは、それまでよりもはるかに多くの人々がインドからやって来るようになりました。その結果、ヒन्दウ教徒やムスリムも増えてきましたが、いくつかの新しい宗教も入ってきました。

その 1 つが、イランで生まれたバハーウッラーという人物が 1860 年代に始めたバハーイー教というものです。バハーウッラーは、イスラームとキリスト教とヒन्दウ教徒とゾロアスター教を混ぜたような教義をつくり、自分を、「ムハンマドに続く 1000 年に 1 人の預言者」と称しました。

バハーイー教以上に東南アジアに入ってきた人数が多かったのが、日本でも少なくはない、アフマディーヤです。アフマディーヤは、インドのミルザ・グラーム・アフマド（1835～1908）という人物が、自分は預言者であると名乗って、1889 年に始めました。現代のパキスタンでは非合法化されていますが、南アジア、ナイジェリア、タンザニアなどに多数の信徒がいて、20 世紀の初めにはインドからの移住者と共に東南アジアにも入ってきました。今では、マレーシアでは非合法化され、インドネシアでは地元のナフダトゥル=ウラマーとの間で死者の出る衝突事件が起きていたりします。

こういった、イスラームに似せた新しい宗教の流入は、人数はそこまで多くはなかったものの、伝統的な法学派をめぐる議論などよりも、より深刻な問題であったといえます。当時の東南アジアのウラマーに送られた質問と、それに答えたファトワーには、タハリールやタルキーンの是非、トカゲを食べてもいいのか、といった質問と共に、バハーイー教やアフマディーヤにどのように対処するべきか、という質問も見られます。

また、中国から東南アジアへの移民も 20 世紀初めには急増していたため、仏教徒や道教の隣人が爆発的な勢いで増えていきました。華人は経済的にも急成長したため、小さな商店なども含め、商売の取引相手は華人であることが増えました。

当時のファトワーには、ヒन्दウ教徒や仏教、道教の人々が、偶像を祀る寺院を近所に建てているが、どうすればいいのか、といった問題がよく見られます。これは、日本や中国に住むムスリムについてもいえることです。ヒन्दウ教徒や仏教、道教については、クルアーンやハディースには何も述べられていません。中東のムスリム社会との最大の違いは、これらの宗教と日常的に接していることといえるでしょう。

一方、現在でもイスラーム世界で最大の問題の1つであるスンナ派とシーア派の衝突については、東南アジアではこの頃はほとんど問題になりませんでした。シーア派のムスリムはほとんど入ってこなかったから、というのが主な理由でしょう。シーア派について問題になってくるのは、1979年のイラン革命の後、それも21世紀になってからです。マレーシアでは、イランからの留学生が急増しました。

伝統的な法学派をめぐる旧集団と新集団の論争にしても、バハーイー教やアフマディーヤの問題にしても、全て中東やインドから東南アジアに入ってきた問題といえます。東南アジアのムスリム自身が、中東からの影響の方を重視する場合がありますが、インドのムスリムからの東南アジアのムスリムへの影響は、歴史を通して非常に大きいです。

新集団を代表する人物の1人として、シンガポール生まれのアフマド・ハサン（1887～1958）がいました。アフマド・ハサンは、インド系のムスリムで、タミル語やアラビア語、インドネシア語の著作を数多く出版しました。インドネシアに移住し、ジャワ島の都市バンドウンを中心に活動しました。

アフマド・ハサンは、イスラーム協会（Persis）という団体を結成し、クルアーンとハディースのみを典拠として判断する、という思想を広めていきました。この団体は、インドネシアのイスラーム団体の中ではそれほど大きい方ではありませんが、現在まで存続していて、200ほどのプサントレンも運営しています。

今回は、アフマド・ハサンの主張と、その影響の広がりについて見ていきたいと思います。

（つづく、インシャーアッラー）



『イスラーム革命の本質と目的—大地の解放のカリフ制—』（中田考著 2012 年ムスリム新聞社発行）より

カリフ国家の諸制度 統治と行政

解放党発行 ハサン中田訳

書名『カリフ国家の諸制度／統治と行政』

発行：解放党

増補版

2005／1426 年

P.O.Box 135190

第 1 章：カリフ

カリフの資格条件

カリフの有資格者となり、カリフ就位の忠誠誓約が締結されるためには、カリフは 7 項の資格条件を満たしていなくてはならない。この 7 項の資格条件は就位締結のための条件であり、そのうちの一項でも欠けていればカリフ位は成立しない。

就位締結条件

第 1 項：ムスリムであること

不信仰者には、カリフ位は無条件に無効であり、服従は義務ではない。なぜなら至高なるアッラーが「アッラーは不信仰者にムスリムの上に決して道を設け給わない」(4:141)と言われているが、統治こそ、統治者が被統治者の上に立つ最も強い『道』であり、また未完了否定詞『決して・・・ない』という表現は、カリフであれ、それ以下の官職であれ、不信仰者がムスリムを支配し治めることは将来に渡って決してないとの決定的な禁止を示しているのである。不信仰者にムスリムの上に道をつけることをアッラーが禁じ給うた、ということは、ムスリムに対して、ムスリムが不信仰者を彼らムスリムの統治者に任ずることを禁じ給うた、ということの意味にしているのである。

またカリフは「権威 (walī al-amr)」であるが、アッラーは「信仰する者よ、アッラーに従い、使徒と汝らのうちの権威者に従え」(4:59)「安全、あるいは危険な事柄が彼らにもたらされた時には彼らはそれを言いふらした。もし彼らがそれを使徒と彼らの中の権威者の許に持ち込んでいたならば」(4:83)、ムスリムであるような文脈でしか用いられない。それは「権威」はムスリムであることが条件であることを示しているのである。そしてカリフは彼自身が「権威」であり、補佐、官吏、総督などの権威者の任命者でもある以上、ムスリムであることが条件となるのである。

第 2 項：男性であること

カリフが女性であることは許されない。つまりカリフは男でなければならず、「ペルシャ人がホスローの娘を女王に選んだとの報を聞いたアッラーの使徒は『女性に自分たちの政治を任せる民は栄えることはない』と言われた」とのハディース（注 1）により、女性のカリフ位は有効ではない。女性による統治の政治、とはカリフとその下の統治にかかわる公職のことを指している。なぜならこのハディースのテーマはホスローの娘の女王就位であるが、それはホスロー（ホスロー 2 世、在位 591－628 年）の娘の就位のケースだけに限られた話ではな

く、ハディースが述べる統治を特に扱ったテーマであり、万事に当てはまる一般論でもなく、統治のテーマの他には適用されないが、それは裁判、諮問議会、行政監査、為政者の選挙は含んでいない。これらは全て女性にも参加が明白に許されているのである。

第3項：成人であること

アッラーの使徒は「3種の者からは筆が取り上げられる（悪行が火獄行きの帳簿に記されない）。すなわち、子供は成人するまで、眠っている者は目覚めるまで、痴呆の者は癒えるまで。」とされているからである。（注2）また別のヴァージョンの文言では「3種の者からは筆が取り上げられる。理性を失った狂人は正気に返るまで。眠っている者は目覚めるまで、子供は精通があるまで。」となっている。「筆が取り上げられる者」とは、イスラーム法上、責任能力者でなく、自分自身の問題を自分で処理しても有効とならないため、カリフ、あるいはそれより下の統治の役務に就いても有効ではないのである。なぜなら彼には行為能力がないからである。

またアル＝ブハーリーの伝えるハディース「ザイナブ・ビント・フマイドが、『アッラーの使徒よ、息子と忠誠誓約を交わしてください』と頼んだが、預言者は『彼はまだ子供だ』と言われ、彼の頭を撫で、彼のために祈られた」（注3）もまた子供がカリフになることが許されないことの典拠となる。なぜなら子供の忠誠誓約が有効とみなされず、他人に対してカリフの忠誠誓約ができないのなら、なおさら自分自身がカリフになることは許されないからである。

第4項：理性を備えていること

「3種の者からは筆が上げられる。・・・理性を失った狂人は正気に返るまで。」とのアッラーの使徒の言葉により、狂人のカリフ位は有効ではない。「筆が取り上げられた者」は責任能力がない。なぜなら理性こそ義務附加の事由、法律行為の有効性の条件だからである。ところがカリフは統治の法律行為を行い、イスラーム聖法上の諸義務を果たさなければならない以上、狂人では務まらないのである。なぜなら狂人は自分自身の事柄においてすら法律行為を有効に行うことができない以上、人々の諸事に対する彼の法律行為はなおさら有効でないのである。

第5項：公正であること

悪人（のカリフ位）は有効ではない。正義は、カリフ位締結と継続の必要資格条件である。なぜならアッラーは「汝らの中の2人の義人を証人に立てよ」（65:2）と言われ、証人に義人であることを条件として課されているが、カリフは証人よりも重要であるので、正義が証人の条件となるなら、カリフには尚更の条件として課されるのである。

第6項：自由人であること

なぜなら奴隷は主人の所有物であり、自分自身のための法律行為を行うことができない以上、他人のために法律行為を行うこと、人々の上に立つ権威を持つことはなおさら出来ないからである。

第7項：有能であること

カリフの職責を果たしうる能力の持ち主であること。なぜならそれは忠誠誓約が要請するからである。というのは、無能であれば、忠誠を誓ったクルアーンとスンナに則って公務を処理することができないからである。有能な人材の中から能力ある者がカリフとなるように、行政不正裁判所(mahkamah al-Mazālim)が無能力の審査を行わなければならない。

オプション条件

上記が、カリフ位締結の資格条件であった。この7条件以外の条件は、たとえクルアーンとスンナの明文の典拠が真正であつとしてもオプションな条件であるか、あるいは真正な明文の定める規定となるだけであり、どれもカリフ位締結の必要条件ではない。なぜならカリフ位締結の必要条件であるためには、それが必要条件であることを示す典拠が、文脈的に義務であることを明示する決定的要請命令を含意していなければならないからである。そうした決定的要請命令を示す典拠がなければ、その条件はオプション条件であり、カリフ位締結の必要条件ではないが、上記の7条件以外には、決定的要請命令を示す典拠は存在しないため、この7条件のみが、

締結の必要条件なのである。位種族の出自や、独自裁量の許されるイスラーム学識や、武器の操作などの決定的でない典拠しかないそれ以外の条件は、言うなればオプション条件に過ぎないのである。

（注1）アル＝ブハーリー（ハディース学者、870年）がアブー・バラクから伝えている。

自分たちの政治を女性に任せる者が栄えないとの使徒の名言は、女性を政務に就けることの要求法の禁止なのである。というのは、この明言は女性に政治を任せる者に対して、栄えることがない、とすることで非難しているからで、文脈的に、厳禁を示しており、女性の政務が禁じられていることになるのである。

（注2）アブー・ダーウード（ハディース学者、889年没）がアリー・ブン・アビー・ターリブから伝えるハディース。

（注3）アブー・アキール・ズフラ・ブン・マウバドが彼の祖父から伝えるハディース。祖父はその母ザイナブ・ビント・フマイドと共にアッラーの使徒にあっていいる。

（続く、インシャーアッラー）



↓こちらもおすすめ↓

田中真知×中田考コラボ小説

『世界のエリートはみなヤギを飼っていた』

(<https://www.kk-best sellers.com/series/>)

イスラーム学習 3

著者 アブドル・アジーズ

訳者：アーイシャ吉成

監訳：ハビーバ中田香織

10. 預言者ムハンマド

(サッラッラーフ アライヒ ワサッラム：アッラーの祝福と平安が彼にありますように)

その 1

預言者ムハンマド（サッラッラーフ アライヒ ワサッラム）は 571 年に生まれました。

この年は、「象の年」として知られています。それはイエメンから軍隊が来た年でした。

その指揮官は、巨大な象の背中に乗っていました。軍隊はカアバ神殿を壊すためにやってきました。

カアバはアッラーに守られました。アッラーが鳥の群れを遣わし、それらが軍隊に石を投げ落とすと彼らは指揮官ともども死んでしまいました。

マッカの人々は象を見てとても興奮し、その年を象の年と名付けました。

預言者の父アブドゥッラーはクライシュ族の一員でしたが、預言者の生まれる数か月前に亡くなりました。アーミナという名前の彼の母は、当時の習慣によってムハンマドを養育のため砂漠へ送り出しました。この習慣はいまでもマッカの豊かなアラブ人の間で見られます。

ムハンマド（サッラッラーフ アライヒ ワサッラム）はそこで乳母ハリーマに育てられました。赤ん坊たちは砂漠のきれいな空気の中で丈夫にあり、またあらゆる悪いことから遠ざけられています。

砂漠でのムハンマドの日々はとても幸せな日々でした。しかし、5 才の時彼は母のもとへ帰され、そしてその年が終わる前に母は亡くなりました。ムハンマドはその時 6 才でした。

そこで小さな孤児は、祖父のアブドゥルムッタリブの保護を受けるようになりましたが、祖父は 2 年後に亡くなりました。

そこでムハンマドは伯父のアブー・ターリブの保護の下に置かれました。アブー・ターリブは、金持ちではなかったので一生懸命働かなければならませんでした。

ある日、彼はシリアへ行く計画を立てました。彼にはムハンマドを連れていくつもりはありませんでした。ところが、ムハンマドがあんまりアブー・ターリブにくっついて離れないので、彼はかわいそうになってムハンマドをシリアに連れて行くことにしました。その時ムハンマドは 12 才でした。

キャラバンはボスラに着いて休みました。ボスラはダマスカスの町から 128Km ほど離れたところにある良い町でした。そこにはバヒーラとよばれる修道士が住んでいました。木の下で休んでいるキャラバンを見つけた修道士は、いおりから出てきてキャラバンのために食事を用意しました。修道士はムハンマドにはすばらしい将来があり、彼に注意をはらうようにとアブー・ターリブに語りました。アブー・ターリブはムハンマド（サッラッラーフ アライヒ ワサッラム）を連れて無事にマッカに戻りました。

作業

A.質問に答える文を書きなさい。

1. 預言者ムハンマドはいつ生まれましたか。
2. その年はなぜ象の年と呼ばれるのですか。
3. 預言者の父親の名前は何ですか。彼はいつ亡くなりましたか。
4. アーミナとは誰ですか。彼女はなぜムハンマドを砂漠へ送りだしたのですか。
5. アブドウルムッターブの死後、ムハンマド（サッラッラーフ アライヒ ワサッラム）といっしょに住んだのは誰ですか。アブドウルムッターブとは誰ですか。
6. アブー・ターリブはなぜしばしばシリアに行きましたか。
7. アブー・ターリブはなぜムハンマド（サッラッラーフ アライヒ ワサッラム）をいっしょに連れていくことに決めましたか。
8. キャラバンはどこで休みを取りましたか。修道士は何をしましたか。
9. 修道士はムハンマドについてアブー・ターリブに何を語りましたか。

A.下から合うものを選んで文を完成しなさい。

1. 預言者たちは人々に_____を教えました。
2. 本当のムスリムは_____を信じます。
3. アッラーは「スフフ」を_____にお与えになりました。
4. アッラーは「ザブール」を_____にお与えになりました。
5. アッラーは「タウラー」を_____にお与えになりました。
6. アッラーは「クルアーン」を_____をお与えになりました。

アッラーの聖典すべて この世でどのように生きればよいか

預言者ダーウード 預言者ムハンマド 預言者ムーサー 預言者イブラーヒーム

B.クルアーンの前に与えられた聖典はどうなりましたか。

C.正しい文に○、間違っている文に×をつけなさい。

1. クルアーンは完全です。
2. クルアーンすべての言葉がアッラーの言葉というわけではありません。
3. クルアーンは生活の一切のきまりを与えています。
4. クルアーンは最も偉大な聖典です。



おすすめ読み物

■『導きのはじめ』アブー・ハーミド・ムハンマド・アル＝ガザーリー著、前野直樹訳、日本サウディアラビア協会。

アル＝ガザーリー（西暦 1111 年没）の本が日本語に翻訳されました。しかも、読みやすい長さで、イスラームの基本が簡潔にまとめられて、一冊手元にあるととても便利です。

本の最後に、アラビア語の原文が載っているので、アラビア語でイスラームを学びたい方は、アラビア語の本文と日本語の翻訳を交互に見ながら読んでみることで、勉強のための一冊にぴったりです。

著者のアル＝ガザーリーは、あらゆる知識は現世のために求めるものではなく、来世のために求めなければならないと語っています。今を生きる私たちは、来世よりも、現世のためにおおくの勉強をしていないでしょうか。本の最初から最後まできっとあたらしい発見がたくさんあることでしょう。

■ 中田考監修、中田香織著、山本直輝序文『やさしい神さまのお話』、百万年書房

今月気になった文章はこちら。

15.おきてとしんじつ（52 頁）

おこないは、さまざまです。人には人のなすべきことがあり、私たちには私たちのなすべきことがあり、人が何をなそうと、それは私たちにはかかわりのないことです。おこないのうちにある意図もまた、さまざまです。

これを読むと、クルアーン第 109 章 [不信仰者たち] を思い出します。その 6 節目で「おまえたちにはおまえたちの宗教があり、私には私の宗教がある。」とされています。何が現実で、何が人生でもっとも大切な、それはひとそれぞれで、それによって現世を生きる生き方も、ひとそれぞれ決まって来るのでしょう。

■『ロスト・アイデンティティ』クラム・ラーマン著、能田優訳、ハーパーコリンズ・ジャパン。

「ロスト・アイデンティティ」というタイトルどおり、イギリスに住む主人公が、住んでいる世界で自分の居場所を失っていくお話です。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の言葉に「イスラームは奇妙なものとして始まり、そして始まった時と同じように奇妙なものに戻る。奇妙な者たちに幸あれ *بدا الاسلام غريبا ثم يعود كما*（*بدا الطوبى للغرباء*）（アブー・フライラの伝える伝承、サヒーフ・ムスリム）とありますが、ひとは、空間をしめず時間にとらわれることのないアッラーとじぶんとの関係だけで、世界を生きようになると、この世界で異邦人のようにになってしまうのでしょう。

お手紙

アッサラームアライクム（みなさんに平安がありますように）

桜も終わり、湿り気を含んだ空気に、青々とした若葉の木々の匂いを感じます。寒くも暑くもなく、大陸から渡ってきたつばめたちを加えて、むくどり、ひよどり、すずめなど鳥たちが、つがいとなって子育てを始めて忙しく会話する声が、窓を開けた家の外から、朝から晩まで始終聞こえてきます。

今年のラマダーン月は、私は、断食が始まる日の出の前の礼拝が午前 4 時くらいなので、その前の 2 時間前、つまり午前 2 時に起きて、洗濯物を回し、断食前のご飯（サフル）を用意し食べて、洗い終わった洗濯物を干し、それから礼拝をして寝ます。その日何の用事もなければ、昼まで布団の中でごろごろして、それから起きて、正午（ズフル）の礼拝をし、それから掃除したり、クルアーン読んだりして、なんとなく晩御飯の準備をして、その日の断食が終わる日没（マグリブ）になり、断食を解く食べ物（イフタール）として水を飲みます。それから日没の礼拝（マグリブ）をしてから晩御飯を食べて、夜（イシャーウ）の礼拝からラマダーン月に特別にあるタラウィーフの礼拝などをしてから寝ます。せっかくラマダーン月なので特に用事のない時間はクルアーンを読み、いつも見ている韓国ドラマや中国ドラマはラマダーン月が終わるまで見ないようにしてお休みしています。

ラマダーン月に入ってすぐのころ、クルアーン解説でも取り上げているアル＝クシャイリー先生の書かれた『クシャイリーの書簡』の「沈黙の章」を読んでいました。断食は飲食を断つことが義務ですが、それ以外にも、口や、心や、体も、アッラー以外のものを断つ、つまり「沈黙する」ことが大切だと言われます。預言者イエス（イーサー：アッラーの平安あれ）の母マリア（マリヤム：アッラーの平安あれ）も、彼女が断食をしている時に彼女の許に人がやってくると「断食中ですので、誰とも話しません」と言って客を帰されていたそうです。（クルアーン第 19 章「マルヤム」26 節参照）理想としては、過去のことも未来のこともアッラー以外のことでなにも思い煩うことなくただ静かに座っている、こんな時間を持つのが、断食をするラマダーン月の過ごし方です。

ただ断食に体が疲れて口は沈黙し、SNS の Twitter でつぶやくこともなく沈黙していますが、心はなかなか沈黙せずというのが実際のラマダーン月の私です。Twitter でじぶんのラインに流れてくる他人のツイートを見て、自分で語る代わりに「いいね！」を普段より多くつけてしまっています。飲食をしないので体が疲れて動かすのも億劫で言葉をしゃべることもめんどくさいと、口も体も静かにじっと座っていると、体は静かになったものの今度は頭の中にいろいろな考えが浮かんできます。夜の御飯は何にしようかな、とか、どこからともなく言葉で頭の中が満たされていきます。いろいろな考えが浮かんでくると、今度は、それをきっかけにいろいろな思いや感情が浮かんで、今度は心が喜んでみたり腹を立ててみたり悲しんでみたり忙しくなります。どこからともなくやってくるので、これらのものが自分で考えたことなのか、それともただ浮かんで消えていくようなものなのか、じぶんで判断できなくなり、頭と心が混乱してきます。そうなったら、もうわけがわからないからただアッラーにお任せしようっと、思いを振り切って、「حسبنا الله（アッラーだけで十分です。）」（クルアーン第 3 章「イムラーン」173 節）」と口と心でつぶやきます。すると不思議と心がすっきりします。もしこんなふうになんか落ち着かないことがある時には、この言葉を口と心でつぶやいてみてください。おすすめです。

せっかくのラマダーン月に、食べ物がなく、病気やけがで苦しんでいるひとたちに、アッラーからの恵みがたくさんありますように。アッラーがわたしたちの罪を赦し給いますように。

ワアライクムッサラームワバラカートフ（みなさんにアッラーの平安と恩寵がありますように）

アーリファ